

令和3年度(2021年度)第三回産業衛生技術部会企画運営委員会 議事録(案)

日時: 令和4年(2022年)2月7日(月) 10:00~12:00

場所: ZOOMによるオンライン会議

出席者(敬称略,五十音順):相澤和幸,飯田裕貴子,池田和博,大久保茂子,川上貴教,貴志孝洋,久保田裕仁,齊藤宏之,藤間俊彦,中原浩彦,中村修,橋本晴男,原邦夫,山内武紀,山野優子

議事録(敬称略)

1. 第95回学会(2022/5/25~28,高知)について

- 企画についての報告があった。技術部会関連行事は5/27(金)9:00~16:00にクラウンパレス新東急高知にて開催予定。
- シンポジウム13(4部会長が登壇)が高知県民文化ホール・グリーンホールにて当日13:30-15:30に予定されており,専門研修会ならびに総会とバッティングしていることが橋本部会長より報告があった。
- 総会については,山野・中原の両部会長に対応を一任する。

2. 第32回全国協議会(2022/9/29~10/1,札幌)について

同協議会における技術部会シンポジウムと技術部会研修会の内容について協議された。

(ア) 技術部会シンポジウムについて

- 化学物質の自律的管理をテーマとする。
- 聴衆のターゲットを産業医,産業看護師等とする。
- 行政側からの演者として,化学物質対策課(木口課長?)に講演を依頼する。
- 検討委員会座長として,城内先生に講演を依頼する(背景,検討委員会での議論の過程,今後の課題,化学物質管理への思いなどについてざっくばらんに話してもらう)。
- 具体的な化学物質管理について,橋本部会長が担当する
- 産業医ならびに産業看護師の役割がどう変わるかについて,土肥先生に依頼する。
- 座長は中原副部会長が務める。
- 企画案について,中原副部会長がとりまとめる。

(イ) 技術部会研修会について

- 北海道地方会にて企画を行う。
- 溶接ヒュームをテーマとする。
- 地元(北海道)からの演者3名を北海道地方会で調整する。
- フィットテストの部分について,フィットテスト研究会に依頼する。

3. 新しい化学物質管理に関する部会としての対応について

- 現在までの検討状況について橋本部会長より説明があった(ラウンドテーブル会議,衛生管理者向け講習会の実施予定など)。> 現状では,すぐに特定団体と連携するのではなく,ラウンドテーブルのディスカッションをもうすこし見ただ上,学会全体の方針に従いたい。> 技術部会が外部への教育研修の機会を提供する件については,特に異論は出ていない。同意が得られていたとみなして良い。
- 橋本部会長より,今後外部に向けた講習会を企画運営する上での体制づくりについての提案があり,下記のような議論が行われた。> 添付資料(注:学会外部に教育・研修を提供するための技術部会内の体制(案))では,部会内コーディネーターがイベントの発掘をすることになっている。これは,地方会任せ,地方会の企画に相乗りということが良いのか?それは全体からするとパイは小さいように思うが,外部団体等への打診や依頼等は考えなくてよいのか?> 外部機関からのニーズの把握,要望の集約や調整については,外部連絡担当が行い,部会内コーディネーターは関与しなくてよいのか?> そうではなく,部会内コーディネーターに調整役をやっていただきたい。実際には人脈が必要になるので,誰にコンタクトをお願いするか,など。最初のコンタクトはコーディネーターにやっていただくことも想定。> 外部連絡担当は,既に相手先が固まった場合の連絡担当を想定。> 頂いた体制案ではそのようには読めないが,仮に部会内コーディネーターにその役割を担わせると,相当な作業量となってしまう。特に,各団体に働きかけ,ニーズを発掘するのは相当の人脈とエネルギーが必要では?> コーディネーターは統括する役割であれば可能だろうが,それは各団体担当の実働部隊がきちんとしていなければ機能しないのでは?

- 全国的に一気に行うことは難しく、人脈の及ぶところ、できるところから実績を積み上げていくことが第一では？
 - 当面はコネクションのあるところから展開していき、いずれ部会 Web ページ等を活用してアナウンスし、教育研修を必要としている機関から連絡していただく、というのが適当ではないか。
 - 教育研修の事例を積み上げていくことで、地方を含めた他の講師でも可能にしていくことが重要。動画配信の活用も視野に入れる。
 - 相手側によって、教育研修の内容が必ずしも画一ではない点に注意が必要。相手側のレベルや対象によって内容を変える必要が出てくる。そのあたりをコーディネートする役割は必要。
 - 取っ掛かりとして、外部連絡担当者がコンタクトを取るということではどうか？
 - 地方会によっては衛生管理者等とのコネクションが強いところもあるので、早い段階で協力を要請するのはどうか？
- 「外部団体の研修ニーズの発掘と団体との交渉・調整」は委員会外で行う体制とするのはどうか？ たとえば橋本部会長を含む部会事務局など。
 - 「委員会外」とあるが、実態としてどうなることを想定しているのか？ 想定されている体制と、部会事務局は大部分重複しているし、人材も限られているので、結局は同じ人達に負担がかかるのでは？
- 以上の議論の結果、体制案については橋本部会長にて再検討し、改めて提案することとし、継続協議することとなった。

4. 各委員会より

- 表彰委員会より奨励賞の受賞者の選考結果が報告された。受賞者は高知の学会での総会にて表彰予定。
- 広報委員会より、部会員向けの同報メールが停止中である旨、報告があった。また、学会 Web ページ更新にあわせて、学会が管理する会員メールアドレスを部会と共有できるようになるため、それを受けてメール連絡用のシステムを再整備する予定であることが報告された。

5. 各地方会より

- 2/19(土)に関東地方会例会(兼・関東産業衛生技術部会研修会)を開催する予定であることが報告された。

6. その他

北海道大学 川上 貴教教授を新たに企画運営委員に加えることが了承された